

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたるユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500303		
法人名	有限会社 アセットリンク		
事業所名	グループホーム いさわ (ほたるユニット)		
所在地	〒023-0401 奥州市胆沢南都田字蛸の手443		
自己評価作成日	令和6年10月5日	評価結果市町村受理日	令和7年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年11月26日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりに合わせた暮らしで、のんびりと過ごそう。
健康的な生活で、食事はおいしく。

職員は認知症介護のプロである自覚を持ち、ユマニチュードのメソッドを取り入れた施設内研修を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

焼石連峰を臨む田園地帯の中にある2ユニットの事業所である。食事は調理師資格を持つ職員が交替で調理し、地産地消を取り入れた手づくりの食事を提供しており、利用者にとって大きな楽しみとなっている。家族の声を反映する機会を設けながら、利用者の日常生活の様子を伝える「おれんじ通信」を開設以来継続して家族に毎月送付しており、感謝の声が寄せられている。ボランティアが正月や敬老会で芸能を披露したり、近隣の児童が作品を毎年持参するほか、災害に備えて地域協力隊や近隣企業の協力も得られ、開設以来の働きかけにより、地域との繋がりが確りと出来上がっている。また健康面でも、歯科も含めて協力医療機関の訪問診療や医療連携看護師の訪問が受けられ、利用者の安心感につながっている。重度化に備えて開所時に作成した看取りに関する指針に基づき、協力医療機関および訪問看護師と365日、24時間の連絡体制を敷き、管理者が責任者となって全職員が利用者・家族の支援に努めている。的確なマネージメントのもとで、地域密着型の事業所として一層の発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたるユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼、職員会議等の諸会議で理念の唱和を行っている。事業所内の目に着きやすい場所へ掲示し、訪問者、家族、地域の方々、利用者にも開示すると共に全職員の意識付けを継続している。	開設当初に全職員が参加して作成した理念に基づき、毎年度重点目標を作っている。今年度は「私達が目指すグループホーム」に向けて、職員を含む関係者間の連携、利用者の余暇活動の充実及び職員のスキルアップの三つを重点目標に掲げ、それぞれ具体的なアクション計画を作成して理念の実践と介護の質の向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症が5類となり、外に出る機会を少しずつ増やしている。地域イベントへの参加や、近隣で散歩を行っている、手を振ってくださる方もいる。	市内のボランティアが事業所の敬老会で歌を披露したり、正月に和太鼓を演奏してくれるほか、近隣の福祉施設に通う障害のある児童が作品を持参するなどの交流が続いている。万一災害が発生した場合には地域協力隊や道路向かいの民間会社からの支援をいただける協力体制がとられている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談にいらした方の状況聴き取りを、時間をかけて実施し、すぐに入居ができなくてもできる限り 寄り添うようにしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催している。コロナが5類となっても 感染予防に努めている事をご理解いただいている。また、地域のイベント情報や レクリエーションについても ご助言いただいている。	老人クラブ連合会役員、行政区長、民生児童委員、市総合支所職員、知識経験者及び駐在所長のほか、利用者・家族代表も交代で出席し、事業所の各種報告に対してそれぞれの立場からさまざまな意見が出されている。駐在所から虐待に関する研修の講師を紹介してもらうなど事業所運営に積極的な協力が得られている。	会議では利用者の年齢、介護度や事業の実施状況を丁寧に報告されておりますが、家族をはじめ委員に対して、職員が意を用いている支援の様子を具体的に伝えるためにも、ヒヤリハットの発生状況と見直しの内容などについても報告することが望まれます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に参加いただいております、市の現状や他施設の取り組みなどの情報も共有している。今年度はマイナンバーカードの施設での申請なども行った。	運営推進会議の委員に市胆沢総合支所の健康福祉課の職員が就任し、事業所のケアの実情も理解している。管理者が市との窓口になって、要介護認定申請やコロナ関連の情報交換など、市とも緊密な連携が図られている。市の防災ラジオが設置されているほか、介護相談員が年に1回来所している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたるユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。虐待防止と共に、年2回の定期委員会の開催。毎月のユニット会議で、利用者のアセスメントを実施し 身体拘束をしない取り組みを行っている。徘徊される方の所在は常に共有するよう、徹底している。	身体拘束に関する指針に基づき身体拘束廃止委員会を開催している。母体の法人主催の研修に全職員が参加しているほか、事業所単独でも毎年研修を実施している。これらに加え今年度から新たにeラーニングによる研修を開始した。一部の利用者については家族の了解のもとで夜間の見守りやオムツ交換などを効果的に提供するため、睡眠や覚醒状態をリアルタイムで把握できる「眠りスキャン」を複数の利用者に設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のための研修を年2回実施し、虐待や身体拘束について学んでいる。グレーゾーンの行為について何度も確認し、指摘し合える職場風土の構築を目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は岩手県高齢者権利養護推進委員養成研修を修了しており、介護現場での権利養護のための取り組みの重要性を認知している。施設内での研修や、諸会議を通して虐待が見過ごされないように職員と協力して取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、都度わからない事がないか尋ねながら進行している。また、契約の日は ご家族の都合に合わせ、時間に余裕をもって実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱、運営推進委員会の家族代表参加、おれんじ通信、面会、通院時の付き添い等で意向やご意見を承る姿勢で接している。入居時には、苦情、第三者委員会について 説明している。	運営推進会議には家族や利用者も代表として交代で出席し、意見を述べる機会を設けている。家族から電話があった場合や家族が日用品を届けたり利用者の通院のため来所した際にも意見を伺っている。入居時に事業所内外の関係者が参加するサービス担当者会議に家族も参加し、希望や意向を支援に反映させている。家族に毎月送付する「おれんじ通信」の下欄にも意見、感想を記載する欄を設けている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム いさわ（ほたるユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議では、職員にも運営状況の確認をし、物品の購入や備品の管理について情報共有と協力をお願いしている。	事業所全体の職員会議と各棟でのユニット会議を毎月開催し、管理者は職員の意見を把握している。職員の毎年の目標の進捗を確認するため、年2回管理者が職員と面談し、その際にも意見などを聞いている。職員からは勤務時間の変更希望のほか、介護方法に関するアイデアやウッドデッキの設置などの提案が出され具体化している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、勤務状況の把握に努め 管理者から職員個々の実績の聞き取りや人事考課で適切な評価に努めている。また、管理者と共に 人事異動や面接など直接職員の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職者にはOJT制度をとり、毎日研修の振り返りシート記入して 不安解消に努めている。代表者も、指導状況を把握している。また、認知症実践者研修への参加、資格取得に積極的に取り組むよう会議などで発信している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ事業者合同で研修会を実施したり、医師会や市のネットワーク研修会への積極的な参加について配慮いただいている。また、訪問看護事業所の職員とは適宜情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談から、本人の生活歴やこだわりなどの把握に努めている。入居後は、新しい環境に慣れる事を最優先とし、職員は困る事がないような声掛けや介助を行うようにしている。また、頻回に会話を持つことで、信頼関係の構築に努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたるユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談では、家族の不安や本人への思いを探り把握に努めている。施設内の見学により、安心していただける説明を心掛けている。契約時には、さらに不安や要望を聞き 関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の話をよく聞き、何が必要なのかをスピード感を大切に対応するよう努めている。必要に応じて、他のサービス利用もできるよう努力している。福祉用具のレンタルなどの相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	在宅で行っていた家事や、花や野菜の手入れなどを一緒にやる事を心掛けている。本人ができることを 一緒にやることで、お互いが協力し合い生活している事を認識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状況の変化は都度連絡し、施設の判断だけでなく本人にとって最良の方向性を一緒に考えるようにしている。面会や電話など、家族と本人が触れ合う機会を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には、家族や友人の写真、手紙を飾ったりしている。家族や親族の面会はあるが、その他の馴染みの関係は少なくなっている。2か月に1度訪問理容をお願いしているが、理容師との会話を楽しみにしている方もいる。	兄弟(姉妹)、孫などの家族が面会に訪れるほか、利用者の中には、家族に手紙を書く人もいる。通院や届け物で家族が来所した際にも、積極的に声をかけて本人との面会を促している。居室担当者が利用者の日常生活の様子を写真付きでA41枚に文章にした「おれんじ通信」を開設以来継続して毎月家族に送付しており、家族から感謝されている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたるユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士 気の合わない関係や認知機能の低下により、うまく言いたい事が伝わらない事もある。食事席は重要で、時々変更しているがトラブルが起きないように十分配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院でサービス利用が終了しても、家族より状況の報告と今後について相談がある時は 支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人に思いや希望を聞いている。遠慮や認知機能の低下により ご自分の気持ちをうまく伝える事ができない事が多い。日常の会話や、家族からの聞き取りにより把握するよう努めている。	日常生活の様子や家族からの聞き取りを通じ、本人の希望などを把握している。利用者同士の会話や入浴中に語る本音も参考になるとしている。利用者全員のモニタリング記録表を作成し、利用者それぞれの課題を分析して本人に合ったサービスの提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時はお話する時間を多く持ち、多くの情報を聞きとるよう努めている。また家族からも 情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は常に一日の暮らし方を観察し、申し送りや情報ノートを活用し情報を共有して現状の把握に努めている。心身状態の大きな変化があればすぐにカンファレンスにて話し合うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の観察と思いをアセスメントし、担当者会議の後に介護計画を作成している。月に1回のユニット会議では、モニタリングを行い職員から様々な問題提起や解決策が提案されている。	入居当初は1ヵ月の暫定計画を作成し、その後アセスメントを経てケアマネジャーを兼ねた管理者や介護主任、本人と家族、看護師も参加するサービス担当者会議での検討結果に基づき、ケアマネジャーが計画期間3ヵ月又は6ヵ月の介護計画を作成している。その後、利用者の課題分析表等を作成し、毎月開催するユニット会議での検討結果に基づき、ケアマネジャーが3ヵ月又は6ヵ月の介護計画を作成している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたるユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子は、ケース、支援経過記録として個別に記入している。夜間は介護ロボットも活用しながら、情報共有している。また、申し送りノートも活用することでモニタリングや介護計画を見直す際の参考となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況の変化に応じて都度対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容、食材の買出し同行など身近な所で地域との関わりをもち 暮らしを楽しむようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以来のかかりつけ医を継続してもらいながら、必要に応じて協力医療機関の訪問診療で連携をとっている利用者もいる。基本は家族と一緒に通院していただき普段の生活や健康状態の情報を提供している。	基本的に入居前のかかりつけ医に継続して受診しているが、両ユニット合わせて5人の利用者が事業所の協力医療機関であるまごころ病院の訪問診療にかかりつけ医を変更している。訪問診療以外で通院する場合は原則として家族が対応しており、その際本人の睡眠を含む健康状態を提供している。歯科は現在5人が近隣の協力医療機関の訪問診療を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師に週1回訪問してもらっている。利用者の経過情報の提供から、健康や病気に対する相談に対し助言をいただいている。また、看取りや緊急時にも連携を密にし支援頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には必要に応じた情報を家族の了解を得て病院に提供している。退院前には、病院の医療連携室と連絡をとり情報共有し早期の退院を目指している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたるユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	居宅療養管理指導や医療連携看護師等との連携のもと、看取りを実施している。家族の希望をお聞きし、施設でできること、できない事を十分説明し最後まで住み慣れた環境での最期を支援している。	平成27(2015)年に看取りに関する指針を作成し、協力医療機関のまごころ病院及び訪問看護師と365日、24時間の連絡体制を敷いている。これまで13人程の看取りを行った。家族が事業所での看取りを希望した場合には、看取り介護の計画書を作成し、管理者を責任者として全職員が利用者、家族の支援に努めている。看取り後は職員が介護の内容を振り返るとともに職員への精神的ケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度AED研修を実施している。その他に急変時や事故発生時の対処方法の研修も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回行っている。夜間の災害を想定した招集訓練も行っている。地域の方にも防災協力者としてご協力いただいている。	避難訓練は、1回目に火災想定、2回目に夜間発生地震災害を想定して行っている。これ以外に消防署立会の総合訓練も行っている。災害があった場合には、地域協力隊や避難所として使わせていただける道路向かいの製造会社の協力を得られることになっている。食糧3日分のほかカセットコンロ3台を備え、避難用のヘルメットもホールに常備している。ハザードマップで浸水想定区域には指定されていない。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢に伴い 耳からの情報が入りにくくなっている。職員もつい、大きな声で話してしまう事があるが、耳元で本人の聞こえる距離感を大切にするようにしている。	今年度の研修は、倫理のほか5回にわたって認知症をテーマに実施しており、大きな声を出したり慣れ合いにならない言葉遣いにも注意し、人生の大先輩としての人格を尊重した介護に当たっている。調理の手伝いなども本人の意向を尊重しながらお願いしている。排泄を失敗した場合は、周囲に知られないように部屋又はトイレで衣類を交換している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や行動の中で、本人の思いや希望をくみ取るようにしている。利用者は、職員へ遠慮したり我慢することがないよう 常に家族のような関係を築けるよう努力している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたるユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション活動や、様々な活動の際決して無理強いせず、一人一人のその日の気分やペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前から着ている服や、スカーフなど女性は拘りがある方が多い。身に付けて心が落ち着く様に 本人の着たい服装、時にはメイクやネイルすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ(玉ねぎの皮むきや、野菜を切る)など、出来る事は参加してもらうようにしている。今年は夏野菜の栽培も行い、食べる楽しみが増えたように思う。また、食事後は食器を洗ったり 拭いてもらう事を日課としている利用者がいる。	調理師の資格を持つ非常勤の職員4人が、交替で両ユニットの調理を行っている。開設以来、利用者にとっての大きな楽しみは、手づくりの美味しい食事とする強い信念を持ち、地産地消にも取り組んでいる。食後は職員と利用者が一緒に後片付けをしている。敬老会などの行事食のほか、誕生日には希望を聞いて提供している。前沢の法人所有の梅園に出かけ、梅もぎしたものを梅干し漬けにして全員で賞味している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量の記録の確認を行い、バランスを見ながら摂取を勧めている。おやつやゼリーなどで補食する工夫も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、入れ歯洗浄を実施している。十分な口腔清掃ができない方は、磨き直しや入れ歯洗浄の介助を行っている。また、居宅療養管理指導のより、歯科医師と歯科衛生士の訪問指導を受けている利用者もあり、情報提供を行い、歯磨き等の指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は一人一人の排泄パターンの把握から、適切な排泄誘導やオムツ交換ができるよう適宜情報交換を行っている。夜間は介護ロボットを利用し、排泄のタイミングを図るなど工夫している。自分で排泄動作ができるよう支援している。	排泄チェック表により個々に誘導している。約半数の利用者は、トイレでの排泄が可能である。両ユニット合わせてリハビリパンツ11人、布パンツ7人で、オムツ使用者はいない。入居前にリハビリパンツの人が、入居後に自立に向けて布パンツに改善した人が4人いる。夜間ポータブルトイレを使用する利用者はいない。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたるユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給を心掛けている。食事からも水分が摂取できるよう、味噌汁やスープも提供している。またラジオ体操や散歩など、運動を習慣化し便秘の予防に努めているが、どうしても自然排便が難しい方には、下剤の処方により苦痛がないように援助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴日は設けているが、当日入浴する気分でないときは日にちを変更したり、清拭や足浴など柔軟な支援を行っている。	1人週2回としているが、入浴を拒否する場合には日にちや時間を変更するなど柔軟に対応している。異性介助は同意のもとに行っている。リフト付き浴槽を備え、足が不自由な利用者でもサポートが可能となっている。入浴中に歌を歌ったり、リラックスして本音を漏らす人もいて、楽しいひと時となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の中で、自由に休息ができるよう配慮している。特に昼食後の午睡は、体力の回復に重要と考えている。ほとんどの利用者が、居室で午睡している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬情報シートをファイリングし、理解に努めている。薬の変更時は観察に努め、薬効や副作用に注意するよう職員間で情報共有している。また、訪問看護にも報告し、アドバイスいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人ができることを職員と一緒に行うようにしている。食事の準備や後片付け、廊下のモップ掛けや畑の水やりなど、楽しみながら自分にもできるという自信とやりがいを感じてもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良好な日は、なるべく前庭や近隣公園などへ散歩に誘っている。通院などで家族の協力が得られるときは、自宅の方まで外出することもある。	天気の良い日は事業所の前庭や近隣の公園まで散歩をしているほか、春にはお花見、6月には前沢に梅もぎのドライブなどに出かけて季節の風景を楽しんでいる。両ユニットに職員提案で設置したウッドデッキがあり、暖かい日にはお茶会も行われている。家族と一緒に通院している利用者も多い。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたるユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族へ電話をする事がある。 家族から電話がかかってくることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や食堂は、利用者と一緒に作成した壁画を飾っている。季節を感じられる様な 作品を作製している。高齢者は、温度感覚が鈍感になっている事が多く、食堂の温度管理には注意している。また、日当たりの良い食堂は自然の光を基本としている。	廊下および日中多く過ごす食堂、応接スペースは天窓のある吹抜け、壁は白、床は薄茶色で落ち着いた雰囲気である。床暖(廊下を除く)とエアコンを完備しているほか、採光もたっぷりで住み心地の良い空間である。壁面には季節感にあふれた利用者の作品が飾られている。トイレ、浴室も明るく、施設全体に清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前には大きなソファを設置している。歌謡曲を一緒に口ずさんだり、うたた寝をしている姿が見られる。食事席は自分の場所という意識があり、新聞や雑誌を読んで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器類は自宅で使用していた物を 施設でも使用してもらっている。居室には、家族の写真や手紙を貼っている方もいる。	居室には電動ベッド、クローゼット、床頭台、エアコンが備えられている。壁には自分の作品、家族からの手紙や写真などを貼っているほか、小さな神棚を祀っている人もいる。湯呑や茶碗も自分のお気に入りのものを持参しており、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心と安全に配慮しながら、2棟を行動制限なく自由に行き来してもらっている。トイレはわかりやすく表示し、洗面用具も記名や使いやすい場所に設置している。		